

どっきりドキドキ！土器づくり教室 上手に焼けたかな？

今年も町内の子どもたちを中心に、土器づくり教室が開かれました。

この土器づくり教室は、粘土で思い思いの作品をつくり、「野焼き」という昔ながらの方法で焼き物をつくるものです。日ごろ身のまわりにある陶器の出来上がる過程を体験してもらい、それを日常生活で利用することにより、物をつくる喜び、物を大切にすることをもちってもらいたいと行われたものです。

11月8日（土）、東公民館で約3時間をかけて家族や友達と思い思いの作品をつくりました。

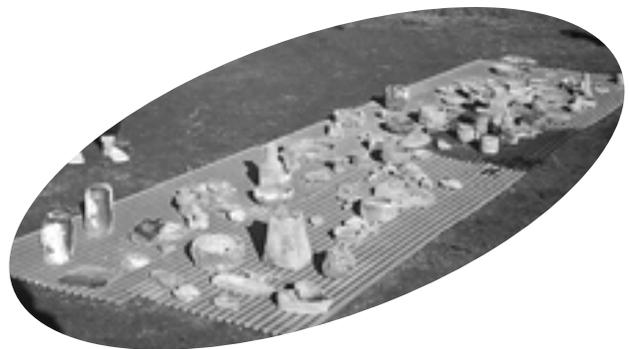
11月22日（土）、2週間自然乾燥させた作品を、町民グラウンドで木材とわらを使い積み上げていきます。子どもたちの手により点火式を行い野焼きを開始しました。そのあと、みんなで焼き芋をほおぼりました。

11月23日（日）、一昼夜にわたり焼いた作品の取り出しです。子どもたちは自分の作品が取り出されると、作品のでき具合に目を輝かせていました。

たくさんの作品の中から特に楽しい作品については、愛媛銀行松前支店、伊予銀行岡田支店に展示しました。また、1月6日（火）から16日（金）までは役場庁舎ロビーに展示しています。



▲町民グラウンドでの野焼き風景（11月22日）



▲作品の取り出し（11月23日）



▲心のこもった歌声（松前中学校3年生の女子生徒有志）

「2003 人権フェスティバル」開催

12月7日（日）、松前総合文化センター広域学習ホールで「2003 人権フェスティバル」が開催されました。

今年は、松前中学校3年生の女子生徒有志による、「ともに生きる」「世界に一つだけの花」の2曲の合唱から始まりました。

生徒たちは、人権についての思いが会場の皆さんを通して松前町から全国へ広がることを願い、懸命に練習に励みました。今までになかった演出で、参加者の皆さんもたいへん感動しました。

つづいて、春風亭柳桜さんの人権落語では、「障害を乗り越えともに生きる」と題して、自らの生き方について話されました。

精神的、身体的に大きな心情の揺れ動きを経験されながらも、力強く生きてこられた人生が、ありありと伝わってきました。

人と人とのかかわりで、お互いの気持ちをありのままに表し、ともに生きるということの大切さを笑いを交えながら熱く語っていただき、あっと言う間に時間が過ぎました。

21世紀は「人権の世紀」と言われています。様々な社会問題がある中で生きている私たちは、人権問題・同和問題の解決のために何ができるのか、何をしたらいいのか、自分自身に問い直してみるよい機会になりました。



▲春風亭柳桜さんの人権落語